日本の名湯「伊香保温泉」の歴史

伊香保温泉は、榛名山二ッ岳の火山活動により温泉が湧出し、今より約1900年前の第11代垂仁天皇の時代に発見されたと伝えられています。
イカホの語源は、アイヌ語で「たぎる湯」という意味の「イカボップ湯川(ユカワ)」や、「イイカオ(好い顔)」、「大変景色の良いこと」の意味など諸説あります。町の中心にある石段街は、天正4（1576)年頃に形成されたと伝えられ、独特の温泉情緒を漂わせています。
江戸時代に入り武士や庶民の旅が盛んになると、「子宝の湯」「婦人の湯」と呼ばれ遊興保養地として隆盛し、滝沢馬琴や十返舎一九などの多くの文人墨客が訪れました。明治時代には、県下唯一の御用邸が開設され、中央の政財界人、文人、外国人の避暑地としてにぎわいました。特に、文豪徳冨蘆花の著書「不如帰」の舞台となったことで「伊香保温泉」の名が全国に知られるようになりました。

「頭文字 D」の聖地、渋川市。

群馬県は、平成7（1995）年から平成25（2013）年にかけて、講談社「ヤングマガジン」にて連載された漫画「頭文字 D」の舞台となっています。その中でも、特に多くの舞台地を有しているのが群馬県渋川市。バトルが行われた峠、拓海の実家、拓海がなつきとデートした場所など、渋川市全体にモデルとなったスポットが点在しています。渋川市では、アニメや漫画の舞台になった場所をファンが訪れるアニメツーリズムを推進しており、コラボマンホールやグッズなど、「頭文字 D」の聖地巡礼がより一層楽しくなるようなコンテンツが盛りだくさんです！

OMIYAGE INFORMATION

「頭文字D」×渋川のコラボグッズ

令和2（2020）年から、渋川市で始めたアニメツーリズム推進。その一環として、「頭文字 D × SHIBUKAWA」シリーズから、全15種類のコラボグッズが登場しました。市内の各地で販売しています。この機会にぜひ、コラボグッズをゲットしてみてください！

YUMMY'S TOPIC!

勝月堂

上品な甘みのこしあんを、伊香保の湯花の色に似た黒糖入り生地で包み、ふっくらと仕上げています。温泉まんじゅうの元祖とも言われる味をぜひご賞味ください。